

「平野区将来ビジョン2026-2029（案）」に対するご意見と平野区の考え方

No.	該当頁	ご意見	平野区の考え方
「はじめに」について			
1	2	平野区将来ビジョン2026年度～2029年度の4年間を見据えてとなっておりますが、年度ごとに進捗確認する必要があるのではないのでしょうか？中間報告はあるのでしょうか？	評価指標はこれまでの同種の取組の実績を踏まえて設定しており、年度ごとの進捗確認につきましては、毎年度の区運営方針において管理を行い、ホームページ等で公表を行ってまいります。
「安全安心のまち」について			
2	8	自分の命は自分で守れ！と言われてるように感じる。高齢者や体の不自由な人が取り残されないか心配。	阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された方の約98%が自助と共助で助けられました。一方、公的機関によって生存したまま救出された方はわずか1.7%という記録が残っております。 地域住民の方一人ひとりが、「自らの命は自らが守る」との意識を持ち、災害時に助かるための適切な避難行動ができるように、情報発信や防災訓練の支援、出前講座などを実施しています。自助・共助の重要性を理解していただくために、関係機関とも協力し引き続き取り組んでまいります。
3	9	街頭の犯罪発生件数は減ってきているにもかかわらず、平野区は治安が悪いというイメージが定着してしまっている。防犯キャンペーンやパトロールなど行ってきており、住みやすいまちであることをもっとアピールしていくことも大事ではないかと思う。	安全で安心して暮らせるまちを実現するため、青色回転灯付防犯パトロール車両を活用した自主防犯活動の支援や、地域、警察署と連携・協働による防犯・交通安全・放置自転車防止啓発や日常的なパトロールの実施、また、職員によるひたたくり防止カバーの取付や注意喚起を行う防犯啓発キャンペーン及びパトロールを実施しています。引き続き、防犯意識の普及啓発に努め、地域防犯力の向上に取り組んでまいります。
4	11	市営住宅の多い平野区では、ひとり住まいの高齢者や、障がいを抱えた方とその家族も多く、自治会・町会の担い手不足が深刻です。町会の加入促進は、とすれば地区間競争につながったり、逆に一部のひとに負担をかけすぎることにつながったりするかもしれません。地域活動協議会とサポートする区役所の連携で、まちに住む一人ひとりが幸せを実感できるような地域コミュニティが形成されていくことを願っています。	多様な年代・立場の人々がつながりの中で安全・安心に暮らせる地域づくりを進めるとともに、地域活動に参加する市民を増やすことを目指し、各種取組を支援してまいります。 また、一部の人の負担にならないよう、ホームページや広報紙、SNSを通じて、一緒に活動してくれる現役世代（18～64歳）の参加を促進してまいります。 さらに、地域活動協議会が地域課題に応じた事業により主体的に取り組めるよう、会計処理の支援など、まちづくりセンターを活用した支援を実施してまいります。
5	13	少子高齢化、人口減少という傾向のなかで、いかにして魅力のある平野区のまちづくりをすすめてゆくののかということが求められていると感じます。単に住むということだけでなく、働き、学び、遊び、買物に多くの人を訪れるまちづくりを進めるうえでも、未利用地の有効活用はその突破口のひとつとなる可能性があるし、他市や他区とのまちの魅力づくり競争に勝ち残っていくためにも、今後の展開を期待したいと思います。	魅力あるまちづくりの実現に向け、本市所管区内未利用地の有効活用を図る中長期的な視点でのまちづくり計画を策定したうえで進めています。計画策定においては、区政会議等で区民ニーズを把握するほか、広く民間事業者からの意見や提案などを求め、実現可能な事業アイデアを把握することにより、めざまちの姿や土地利用の方向性を検討しています。今後も他の事例も参考にしながら魅力あるまちづくりを推進してまいります。
6	14	区民ニーズの聴取が区政会議等にとあるが、区政会議以外で他にどんな場面で聞いてくれるのか。公平な意見反映が行われないのではないか。	区民ニーズの聴取については、区政会議で直接ご意見を伺うほかに、区民モニターアンケートや地域の方が集まる会議等により、広く意見聴取を行ってまいります。
「みんなで支えあふ福祉と健康のまち」について			
7	15	昨年、万博ボランティアや災害ボランティアの活躍は広く報道されて知られるようになりました。他方、日常的なボランティア活動は、人数の面でも活動量の面でも課題は多いと感じています。ボランティアの担い手は、福祉分野だけでなく、地域の祭りなどのイベントや地域や商店街のウェブサイト構築など、さまざまな場面で必要なときがあるので、高校生や大学生、区内の企業や個人に幅広く声をかけるような仕組みをつくってはどうか。	学生や区内の企業等、幅広い層にボランティア活動を知ってもらい、参画してもらえよう、ボランティア活動の拠点である平野区ボランティア・市民活動センターと連携してまいります。
8	15	地域福祉活動コーディネーターの見守り・相談活動は、地域にとってとても重要な役割だと考えます。とはいえ地域福祉は、コーディネーターの個人的な活動だけに任せるのではなく、各種福祉専門職や地域・区社協・区役所等の連携で担っていくべき、組織的な体制であることに留意しつつ、充実を図っていただきたいと思います。	地域福祉活動コーディネーターは、地域住民の身近な相談先であり、地域のアンテナ役、関係機関等とのパイプ役として、各種福祉専門職や関係機関等と連携し、活動しており、地域における包括的な相談支援体制の中心となっております。 引き続き、地域福祉活動コーディネーターを含めた関係機関等が相互に連携し、組織的な体制で相談活動が行えるよう努めてまいります。
9	16	総合的な相談支援体制の充実とありますが、地域福祉活動コーディネーターがこの体制を機能させるのは、難しいのではないのでしょうか？	

「こどもが元気で育つまち」について			
10	19	町会・連合会はおおよそ校区単位で形成されていることから、小学校・中学校は子育てや防災、生涯学習等といった地域をまとめる中心施設という側面があると感じます。地域のこどもを地域で育てることからも、地域と学校との組織的な連携という面で、（はぐくみネットコーディネーターだけでなく）市内の他区で推進している学校協議会の役割は重要だと考えます。	学校協議会は保護者や地域住民の方々の学校運営への参加を促進すること等を目的として、各学校園で設置されております。学校協議会とも連携しながら、こどもたちが家庭・学校・地域で健やかに成長し、次の世代を担っていく人材を育むことができるまちをめざしてまいります。
11	22	「民間との連携等により、ネットリテラシーの向上に取り組みます。」とありますが、対象は小中学生だけでしょうか？SNSでのいじめ、誹謗中傷など社会問題化しており、利用頻度の高い高校生や大学生にも必要だと思います。	ネットリテラシーの向上については高校生以上の方々にも大切であると認識しており、民間との連携等により取組を進めてまいります。
12	24	「区内の教育機関と連携し、区役所の事業や地域のイベントなどにおいて、高校生や大学生等の若者が区政や地域活動に参加できるような機会を確保することで、地域活動において新たな活力や交流をもたらし、行政においても効果的な区政運営が推進できるよう、若者との協働を進めます。」とありますが、若い人に参加していただけるようもっと区役所や地域がどういった活動や事業をおこなっているのかをいろんな媒体で発信し、興味をもってもらうことが重要だと思います。	高校生や大学生等の若者が区政や地域活動に参加していただけるよう、区内の教育機関と連携するとともに、広報紙をはじめ区ホームページや区SNS等を活用し、必要な情報を効果的に発信してまいります。
「施策を推進していくために」について			
13	25	サポート双方向の対応は、具体的ではないので分かりにくいです。	平野区将来ビジョン2026-2029は、「安全安心のまち」「みんなで支えあう福祉と健康のまち」「こどもが元気で育つまち」の3つの柱をお示しし、その3つの柱を支え、施策を推進する取組として、「サポートする」「発信する」「向上する」「協働する」の4つをお示ししており、具体的な取組については、将来ビジョンのアクションプランである区運営方針でお示しさせていただく予定です。
14	25	毎月広報紙を楽しみにしています。もっと区の活動について知りたいのもっと情報発信してほしいと思います。	毎月広報紙を楽しみにしていただきありがとうございます。今後も、広報紙をはじめ区ホームページや区SNS等を活用し、区民の皆さまにとって必要な区政情報や区の魅力の効果的な発信に努めてまいります。
「参考データ」について			
15	28	外国人人口の推移で見ると人口が増えている状況なので、外国人住民の方への支援策(対応策)の記載があってもよいのではないかと思います。	平野区将来ビジョン2026-2029は、3つの柱(施策の方向性)を掲げ、それを支える取組の1つとして「サポートする」をお示しさせていただいております。世代・性別・障がいのある・なし・国籍などにかかわらず、すべての人に寄り添い、双方向の対応を行ってまいります。